令和７年度 三職能合同交流会報告

「意思決定支援～全世代における患者・家族の人生の選択を支援する～」

１．はじめに

患者および家族に対する意思決定支援は、保健師・助産師・看護師全ての領域で関わる重要なケアである。看護師の倫理綱領には「4.看護職は、人々の権利を尊重し、人々が自らの意向や価値観にそった選択ができるよう支援する。」「人々は、知る権利及び自己決定の権利を有している。看護職は、これらの権利を尊重し、十分な情報を提供した上で、保健・医療・福祉、生き方などに対する一人ひとりの価値観や意向を尊重した意思決定を支援する。」と述べられている。病院・施設・在宅・地域と看護職が関わる全てのフィールドで意思決定支援の場面があり、看護職（保健師・助産師・看護師）は対象者がその人らしい人生を選択できるよう支援する必要がある。各職能から意思決定支援に関わった事例（4 題）の発表と臨床倫理士からの講義を通し、それぞれの職能がその領域で意思決定支援をどのように進めていけばよいか考える機会とするため本研修を企画した。

２．概要

１）テーマ：　「意思決定支援～全世代における患者・家族の人生の選択を支援する～」

２）日　時：2025 年 6 月 21 日（土）　13：30～16：00

３）内　容：オリエンテーション 5 分、事例報告 4 事例（保健師・助産師・看護師Ⅰ病院領域、看護師Ⅱ在宅施設領域）55 分、特別講演 75 分、総合ディスカッション（質疑応答）15 分

４）講　師：　琉球大学病院地域・国際医療部臨床倫理士　金城　隆展先生

事例提供 4 名（保健師：諫早市中央部地域包括支援センター　嘉松　優子）

（助産師：長崎大学生命医科学域保健学系　佐々木　規子）

（看護師Ⅰ：JCHO 諫早総合病院　　鎌田　茜）

（看護師Ⅱ：訪問看護ステーションひまわり　金子　京美）

５）場　所：ながさき看護センター、　離島配信（下五島・上五島・壱岐・対馬）

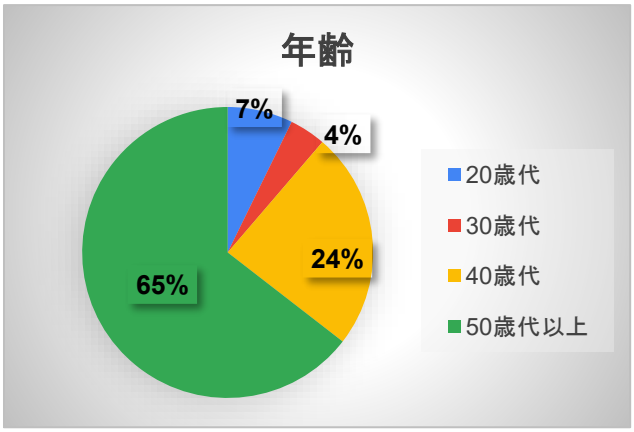
６）対象者：保健師・助産師・看護師・准看護師

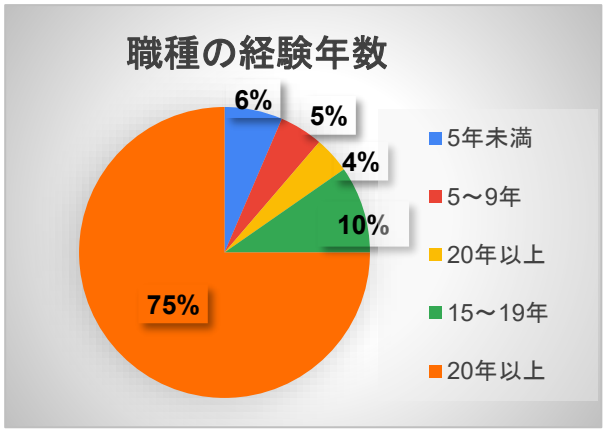
７）参加者：　222　名　（会員 212 名、非会員 10 名）

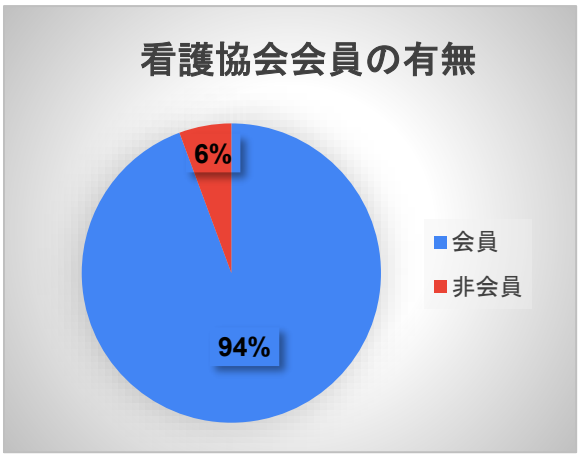
３．アンケート結果

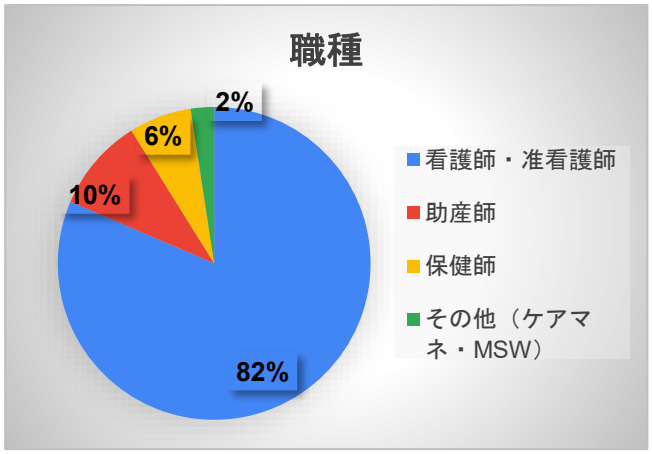
１）回収率：　56%　124 名/　222 名

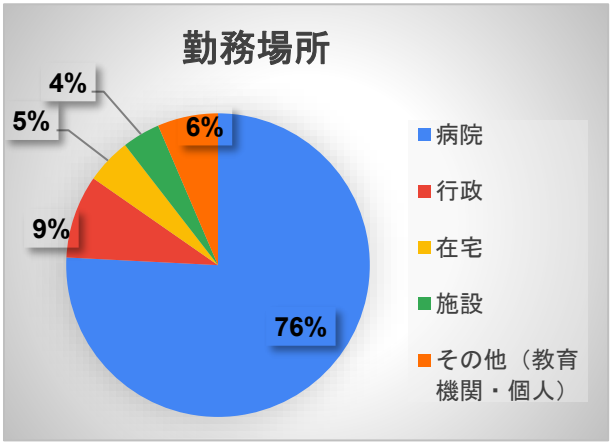
２）アンケート調査結果

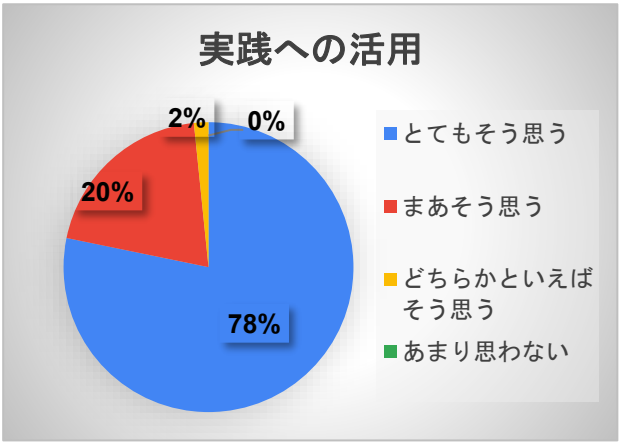


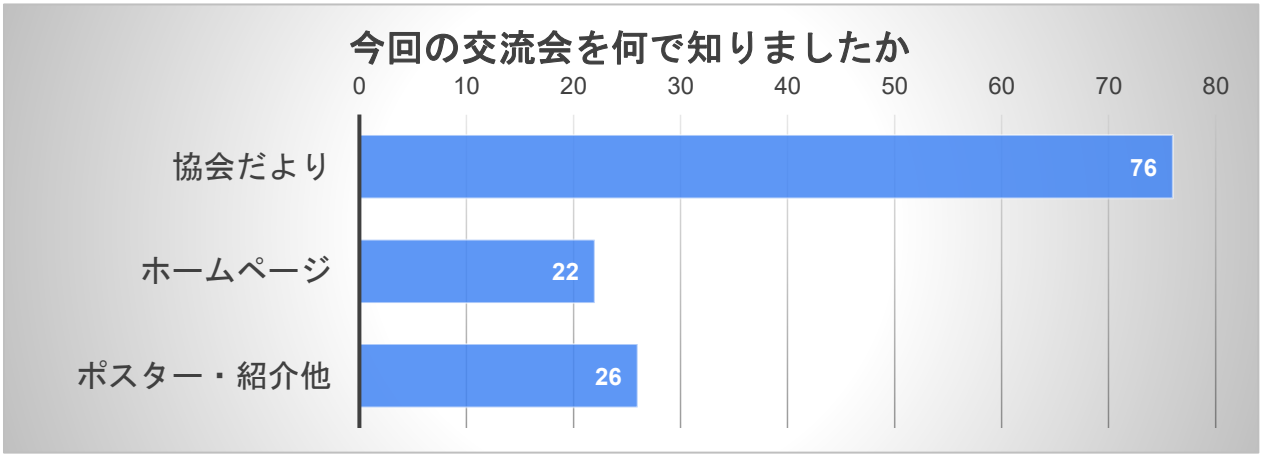


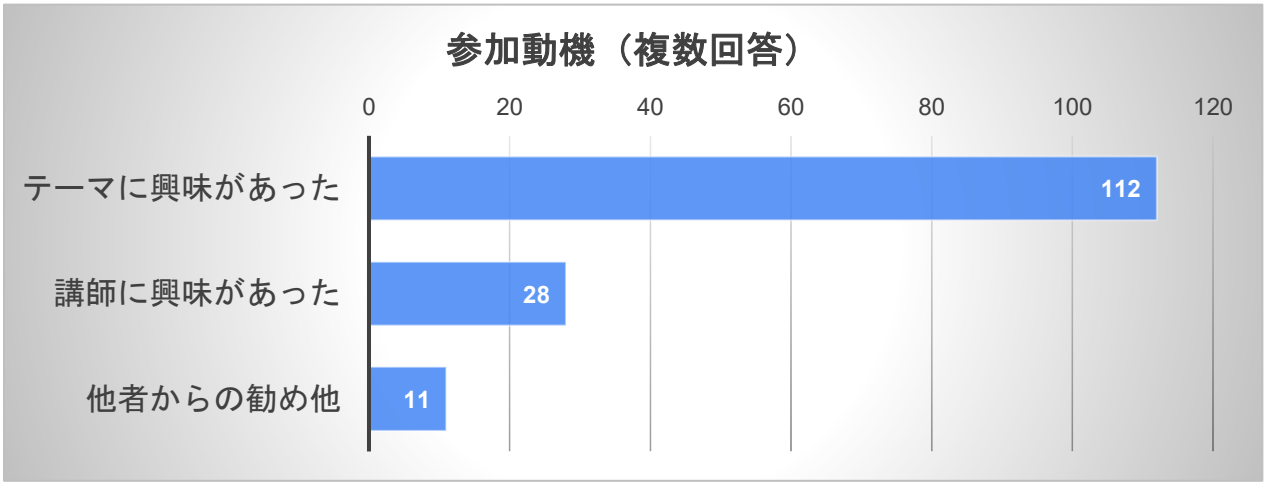

看護協会会員の有無
6%
94%
会員
非会員


職種
2%
6%
10%
82%
看護師・准看護師
助産師
保健師
その他（ケアマネ・MSW）


勤務場所
4%
5%
6%
9%
76%
病院
行政
在宅
施設
その他（教育機関・個人）


実践への活用
2%
0%
20%
78%
とてもそう思う
まあそう思う
どちらかといえばそう思う
あまり思わない


今回の交流会を何で知りましたか
0
10
20
30
40
50
60
70
80
協会だより
76
ホームページ
22
ポスター・紹介他
26


参加動機（複数回答）
0
20
40
60
80
100
120
テーマに興味があった
112
講師に興味があった
28
他者からの勧め他
11

自由記載

・どの様な状況にある人でも人権や尊厳があり、本人や家族の意志決定を重んじる事への重要性を深める事が出来た。

・本人を置き去りにしていないか。ということは、常に感じていた。日々の業務が誰のためなのか、意識し続けていこうと思った。

・今後の看護に活かせる素晴らしい講演でした。立ち返ることができた。

・ACP は決めることではなく、意思決定は話し合いながら患者さんと共同でやっていくことと理解できた。選択において、知識や経験の差があるということについて、気をつけているつもりだったが、つい自分たちの枠の中での選択提示になりがちだなと反省した。患者さん・住民さんの考えや生活の中で、選択肢を提案できるよう、そばにいて寄り添っていきたいと思った。最後の医療介護職は、杖であるとのお話も心に残った。

・ACP の推進を推し進めるあまり、ACP が形骸化してしまっているのではないかとハッとさせられた。形だけの ACP で患者本人が置き去りにされる事がないよう、共同覚悟決定が大事になると気付かされた。

・私自身が考えていた意思決定支援をアップデートできて、今回の交流会に参加できて良かった。

・患者・家族との意思決定支援を行う上で患者・その家族の意見の食い違いが生じるため事前に繰り返し話し合いを行う必要があること、また話し合いを行う上で患者の意思を中心に考える必要があることなど学ぶことが出来た。今後に繋げることができるよい学びとなった。

・これまで患者さんを中心に考えていたつもりでいたが、講演を聞いて、もしかしたら、患者さんを置き去りにしていたのではないかと、改めて考えさせられた。

4. まとめ

一般演題は、各職能の立場で事例を通した倫理的な場面での対応が発表された。どのケースでも、揺れ動く気持ちに寄り添い、その時々の意思を引き出し支援していくことが述べられていた。患者・家族の意思を確認するうえで、わかる言葉で丁寧に説明し、患者・家族の思いを引き出したうえで選択できるように支援し寄り添っていくことが必要と感じた。

特別講演は、臨床倫理士の金城先生よりご講演いただき、IC と ACP、意思決定について動画なども用いてわかりやすく説明があった。本人の思いに寄り添うことの真意を認識できた。ご本人を中心に、ご本人だったらという視点で話し合う事の重要性を改めて実感し、相互理解を深めていく過程が重要であることを学んだ。最後のメッセージ動画「杖になる」が、深く印象に残っている。「支援する」という言葉は要注意という説明もあったが、覚悟を持って、患者・ご家族の思い・決断を受け止め支えていくことが私たち看護職の目指すべき事であると実感できた。

今回の研修を通して 3 職能が協働して計画し、全世代における様々な場面で意思決定に関わることの重要性が再認識できた。人生は選択の連続であり、医療・保健・福祉といった大事な局面で意思決定に関わる看護職は、対象とともに覚悟をもって相互作用しながら寄り添うことの大切さを学んだ。これから 2040 年に向け「その人らしさを尊重する生涯を通じた支援」を目指し、様々な医療現場および職能で本日の学びが活かされることを期待している。

看護師職能委員会